

オール木下牧子作品による

新しい日本歌曲の演奏会

へびとりのうた



絵と詩 東君平

きょうも今日とて
へびとりの思うこと
如何にしてへびを捕らえるか

いつの日もどんな日も
へびの思うこと
如何にしてへびとりを逃れるか

森は鬱蒼と陰鬱に
へびとりは悲し
へびもまた悲し

2019年8月18日(日)1:30開演 会津稽古堂 多目的ホール

■主催 アルス・ノヴァ ■後援 会津演奏家連盟

『新しい日本歌曲の演奏会 ～ へびとりのうた 』にご来場いただきありがとうございます。

日本歌曲といえますと、『浜辺の歌』や『からたちの花』といった大正時代に作曲された作品が思い浮かぶと思いますが、本日お聴きいただきますのは、古いものでも1995年、新しいものは2011年と、ここ20年ほどの間に作曲された《平成生まれの新しい日本歌曲》です。

木下牧子さんは『春に』や『たいようオルガン』をはじめとする多くの合唱作品で広く世に知られていますが、オーケストラや室内楽、管楽器や打楽器、ピアノ、さらにはオペラや音楽物語まで広く手がける、いま日本で一番多忙な作曲家です。歌曲制作にもたいへん意欲的で、その数はすでに100曲を超え、年を追う毎に新しい作品が誕生しています。中にはテノールからの委嘱作品もありますが、ソプラノを想定して書かれたものやバリトン歌手に献呈された曲もあります。そんな木下作品を『シリーズ 新しい日本歌曲の演奏会』として、声種を超えて毎年歌い重ねていこうと思い、敢えてプロフィールには《うた》と記載しました。

ご自身の作曲スタイルについて「高校卒業までピアノ科だったせいか、私は完全にハーモニー重視です。メロディに伴奏をつけるという作曲のしかたはほとんどしなくて、まず厚みのある響きの流れを作ってその上に自然に浮かび上がる旋律をのせていきます。ですから聴く分にはきれいですが、演奏するとなると、刻々と変化する響きをきちんと感じていないとメロディラインが上手く嵌らないんです。耳のよさが不可欠です」とおっしゃっています。

《ピアニスト 小原孝さんとの対談より抜粋》

外国歌曲と違い、聴き手も歌う側もリアルタイムでその歌詞を自然に把握できるところに日本歌曲の魅力があります。日本歌曲の父、山田耕筰と同じ時代を生きた北原白秋も、現代の私たちに実に生き生きと語りかけてきます。文語で書かれていても、古めかしさを感じることはありません。作曲家が詩に出逢い、歌手がその作品に出逢い、聴き手がその演奏に出逢い、そして詩人の想いは時を経て聴き手に届きます。そんな輪の一端を担えたらと思います。

最後に演奏いたします『へびとりのうた』は、へびとり（へびを捕らえる職業人）とへびの攻防をコミカルに描いた作品です。題材となったのは東君平さんの詩集で、皮肉で哀愁漂う軽妙洒脱な詩に、意外なほど明るい色調のイラストが添えられています。東君平さんのご夫人、東栄子様には直接お電話までいただき、チラシやポスターへのイラストの使用を快くお許しいただきましたこと心より御礼申し上げます。また本日の演奏会をご自身の公式ウェブサイトにご紹介いただきました作曲者の木下牧子先生にもあわせて深く感謝申し上げます。

本日はどうぞごゆっくりお楽しみください。



へび年生まれ 金子 堅治



《作曲家》 **木下 牧子** (きのした・まきこ) Composer / KINOSHITA Makiko



東京生まれ。東京芸術大学作曲科首席卒業、同大学院修了。日本音楽コンクール作曲部門（管弦楽の部）入選。日本交響楽振興財団作曲賞入選。三菱UFJ信託音楽賞奨励賞受賞。

主要作品に、オペラ「不思議の国のアリス」、オーケストラのための「呼吸する大地」、室内楽「もうひとつの世界」、吹奏楽曲「ゴシック」、合唱組曲「方舟」、歌曲集「秋の瞳」、ピアノ曲集「記憶の森」他。今までに5回の作品個展を開催。出版は約100冊、CDも「室内楽作品集～もうひとつの世界」（レコード芸術 特撰盤／ライヴノーツ）他多数。

●公式サイト <https://kinoshitamakiko.com>



《うた》 **金子 堅治** (かねこ・けんじ) Vocal / KANEKO Kenji



東京生まれ。6歳よりピアノを始める。父親の転勤に伴い13歳で会津に転居。会津高校在学中に声楽を藤村晃一、ピアノを秋月和子の両氏に師事。国立音楽大学音楽学部声楽科（テノール専攻）に進学、田島好一教授に師事。

会津大学短期大学部社会福祉学科（保育士養成課程）では13年に渡り教壇に立ち、多くの学生の指導にあたる。現在は自宅にて音楽教室を主宰し、幼稚園生から大人までにピアノ・声楽など幅広く指導。合唱の指導には定評があり、おおるりコーラス（磐梯町）では平成15年より指揮者を務めている。昨年10月にはチェンバロに江川龍二氏を迎え、オール・バロック作品によるソロ・リサイタル『バロック・イン・チャペル』を開催し好評を博す。

●公式サイト <https://kenjikaneko.com>



《ピアノ》 **金子 理恵** (かねこ・りえ) Piano / KANEKO Rie



埼玉生まれ。4歳よりピアノを学び、東京家政大学附属中学・高校を経て玉川大学文学部英米文学科卒業。

大学卒業後はホテル・センチュリーハイアットにてフロント・クラークとして勤務。結婚後、玉川大学教育学部教育学科（幼児教育専攻）に学び、幼稚園教諭免許を取得。幼稚園勤務を経て、現在は自宅音楽教室にて幼児・児童への音楽指導を行うほか、声楽や合唱の伴奏を中心に活動。また幼稚園・保育園・福祉施設において15年にわたり音楽ボランティアも行っており、所属する『木の実シアター』は、その功績が認められ会津坂下町より『町民憲章推進章』が贈られる。

前半プログラム

歌曲集『抒情小品集』（1999年）より

うぐいす

詩 武鹿 悦子

1. 歌曲集『花のかず』（2011年）より

詩 岸田 衿子

花のかず

夢のなかの空

クルミ

竹とんぼに

ある日のたび

2. 歌曲集『六つの浪漫』（1995年）より

草に寝て…

詩 立原 道造

重いのはなあに？

訳詩 木島 始
原詩 Christina Rossetti

ほのかにひとつ

詩 北原 白秋



後半プログラム



3. 歌曲集『秋の瞳』（1995年）より

詩 八木 重吉

おおぞらのこころ

植木屋

秋のかなしみ

竜舌蘭

4. 無伴奏合唱曲からの編曲作品を集めて

おんがく（2011年）

詩 まど・みちお

夢みたものは（2008年）

詩 立原 道造

鷗（2009年）

詩 三好 達治

5. 歌曲集『へびとりのうた』（1999年）

詩 東 君平

I

II

III

IV

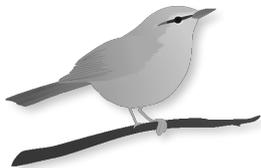
歌曲集『抒情小曲集』

うぐいす

詩 武鹿 悦子

うぐいすの こえ
すきとおる
はるのつめたさ
におわせて

うぐいすの こえ
すきとおる
うちゅうが 一しゅん
しん、とする



1. 歌曲集『花のかず』

詩 岸田 衿子

花のかず

ひとは行くところがないと
花のそばにやってくる

花は 咲いているだけなのに
水は ひかっているだけなのに

花のかずを かぞえるのは
時をはかる方法
ながれる 時の長さを

ひとは 群れからはなれると
花のそばへやってくる

花は 黙っているだけなのに
水は みなぎっているだけなのに

夢のなかの空

こどもは よく夢をみた
空をとぶ 夢をみた
蝶のような 軽い翅もなく
犬鷲のような つよい翼もなしに
波にうかんでいるみたいに
ふわり ふわり 空をとんでいた

ときどき 手足をうごかしてみる
空には 道もない 信号もない
夢のなかの空は あかるかった
空をとんでいるのが
すこしも不思議じゃない 怖くない
いつでも 鳥がとぶのを見ていたから

夢のなかの空は あかるかった
目をあければ くらやみだったのに

クルミ

りすはクルミを放したくない
ねむるときも
夢のなかでも
クルミを抱きしめている

りすはクルミを振ってみる
ころろ ころろろ クルミは唄う
その音をききながら
りすは祖先の森へ旅立ってゆく

竹とんぼに

なるべく 高く
なるべく 遠くって
いきかせたけれど
もし ほんとうに
行ってしまったら どうしよう

とんぼより 飛行機よりも
空がすきになったら どうしよう
地平線をこえて
まひるの星に あいに行ったら
こっそり もどってきて

なるべく 高く
なるべく 遠く
でも ここをわすれないで

ある日のたび

あるひ
ゆくさをきめずに
でんしゃに のってみる
しゅうてんで おりたら
みさきまで あるいてみる
だれにも みちをきかないで
なのはなのみち
まめのはなのみち
むこうに うみが ひかるまで

あるひ
あるきつかれたら
くもをみている
とりのなまえも
やまのなまえも わすれてしまって
ほんとうに ひとりでまっている
くもが であって
また ちぎれるのを
そらの はしから よるがくるまで

草に寝て…*

詩 立原 道造

それは 花にへりどられた 高原の
林のなかの草地であった 小鳥らの
たのしい唄をくりかえす 美しい声が
まどろんだ耳のそばに きこえていた

私たちは 山のおちらに
青く 光っている空を
淡く ながれてゆく雲を
ながめていた 言葉すくなく

—— しあわせは どこにある？
山のおちらの あの青い空に そして
その下の ちいさな 見知らない村に

私たちの 心は あたたかだった
山は 優しく 陽に照らされていた
希望と夢と 小鳥と花と 私たちの友だちだった

重いのはなあに？

原詩 C.Rossetti

訳詩 木島 始

重いのはなあに？ 海の砂と 悲しみ
短いのはなあに？ 今日と 明日
もろいのはなあに？ 春の花と 若さ
ふかいのはなあに？ 大海と 真理

ほのかにひとつ*

詩 北原 白秋

罌粟ひらく、ほのかにひとつ、
また、ひとつ……

やわらかき麦生のなかに、
軟風のゆるゆるそのに。

薄き日の暮るとしもなく、
月しろの顫うゆめじを、

縫れ入るピアノの吐息
ゆうぐれになぞも泣かるる。

さあれ、(また) ほのに生れゆく
色あかきなやみのほめき。

やわらかき麦生の靄に、
軟風のゆるゆる胸に、

罌粟ひらく、ほのかにひとつ、
また、ひとつ……

おおぞらの ころろ*

わたしよ わたしよ
白鳥となり
らんらんと 透きとおって
おおぞらを かけり
おおぞらの うるわしい ころろにながれよう

植木屋*

あかるい 日だ
窓のそとをみよ たかいところで
植木屋が ひねもすはたらく

あつい 日だ
用もないのに
わたしのころろで
朝から 刈りつづけているのは いったいだれだ

秋のかなしみ*

わがころろ
そこの そこより
わらいたき
あきの かなしみ

あきくれば
かなしみの
みなも おかしく
かくも なやまし

みみと めと
はなと くち
いちめん
くすぐる あきのかなしみ

竜舌蘭*

りゅうぜつらんの
あおじろき はだえに 湧く
きわまりも あらぬ
みず色の 寂びの ひびき

かなしみの ほのおのごとく
さぶしさの ほのおのごとく
りゅうぜつらんの しずけさは
豁然たる 大空を 仰ぎたちたり



4. 無伴奏合唱曲からの編曲作品を集めて

おんがく

詩 まど・みちお

かみさまだったら
みえるのかしら

みみを ふさいで
おんがくを ながめていたい

目もつぶって 花のかおりへのように
おんがくに かお よせていたい

口にふくんで まっていたい
シャーベットのよう広がってくるのを

そして ほほずりしていたい
そのむねに だかれて

夢みたものは…… *

詩 立原 道造

夢みたものは ひとつの幸福
ねがったものは ひとつの愛
山なみのあちらにも しずかな村がある
明るい日曜日の青い空がある

日傘をさした 田舎の娘らが
着かざって 唄をうたっている
大きなまるい輪をかいて
田舎の娘らが 踊りをおどっている

告げて うたっているのは
青い翼の一羽の小鳥
低い枝で うたっている

夢みたものは (ひとつの愛
ねがったものは) ひとつの幸福
それらはすべてここに ある と

() 内の歌詞は作曲されていません。

鴉 *

詩 三好 達治

ついに自由は彼らのものだ
彼ら空で恋をして
雲を彼らの臥所とする
ついに自由は彼らのものだ

(ついに自由は彼らのものだ)
太陽を東の壁にかけ
海が夜明けの食堂だ
ついに自由は彼らのものだ

ついに自由は彼らのものだ
彼ら自身が彼らの故郷
彼ら自身が彼らの墳墓
ついに自由は彼らのものだ

(ついに自由は彼らのものだ)
太陽を西の窓にかけ
海が日暮れの舞踏室だ
ついに自由は彼らのものだ

ついに自由は彼らのものだ
一つの星をすみかとし
一つの言葉でことたりる
ついに自由は彼らのものだ

(ついに自由は彼らのものだ)
朝やけを朝の歌とし
夕やけを夕べの歌とす
ついに自由は彼らのものだ



*の詩は読みやすさを優先し現代仮名遣いに直して表記しています

I

きょうも今日とて
へびとりの思うこと
如何にしてへびを捕らえるか

いつの日もどんな日も
へびの思うこと
如何にしてへびとりを逃れるか

森は鬱蒼と陰鬱に
へびとりは悲し
へびもまた悲し



II

サラリ サラサラ
サラリ サラサラ
竹やぶの
竹から竹への
軽業も
サラリ サラサラ
サラリ サラサラ
葦原の
葦から葦への
抜き足も
雀は誤魔化せても
へびとりは誤魔化せない
きょうも雀はへびにのみれる
きょうもへびはへびとりに捕まる



III

なぜですか
あなたになにかしましたか
噛んだとでもいうのですか
しめつけたおぼえもありません
いったいぜんたい
何故に捕まえるのですか
アダムとイブをそそのかしたこと
まだ怒っているのですか



IV

おまえは わたしの
カナリアをのんだ

おまえは わたしの
ネコものんだ

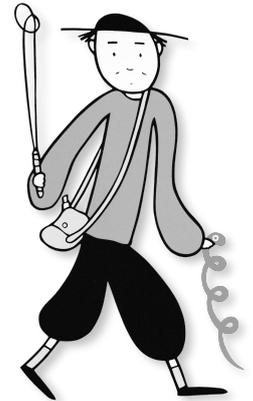
おまえは わたしの
馬ものんだ

おまえは わたしの
家内ものんだ

ここまでは許せる

しかし おまえは
わたしの 大切な
ブランデーものんだ

これだけは許せない



ARS NOVA 金子音楽教室

ピアノ・声楽・ソルフェージュ・音大受験



- 幼児のための音楽導入コース(40分)
- ジュニアコース(40分)
- シニアコース(60分)

<http://ars-nova.info>

お気軽にお問い合わせください ☎ 0242-26-2614



木下牧子 声楽作品一覧

作曲年月日	歌曲集名	曲名	作詞	演奏時間
2018	連作歌曲「暁の星」	暁の星	夏目 漱石	
2016	歌曲「いっしょに」	いっしょに	工藤 直子	3'15"
2016	歌曲「木を植える」	木を植える	谷川俊太郎	3'10"
2016	歌曲「恋のない日」	恋のない日	堀口 大學	3'00"
2015	歌曲「サッカーによせて」	サッカーによせて	谷川俊太郎	2'30"
2015.08.30	歌曲集「太陽は空の中心にかかる」	食後 永い午後 もし鳥だったなら ヴァカンス 太陽は空の中心にかかる	立原 道造	3'10" 2'40" 3'40" 3'00" 3'20"
2013.06.29	長編歌曲「野梅」	野梅	北森 彩子	11'00"
2012.06.30	音楽物語「蜘蛛の糸」	蜘蛛の糸	芥川龍之介	40'00"
2012.01.07	歌曲集「いちばん すきなひとに」	ぼくはまるでちがって また昼に 二人の詩 忘却 しぬまえに おじいさんの いったこと	黒田 三郎 立原 道造 尾形亀之助 堀口 大學 谷川俊太郎	2'30" 2'10" 1'30" 2'45" 3'10"
2011.02.25	歌曲「おんがく」	おんがく	まど・みちお	3'00"
2011.02.25	歌曲集「花のかず」	花のかず 夢のなかの空 クルミ 足おと 曇り日なら カゼクサ 竹とんぼに あさっておいで ある日のたび	岸田 衿子	3'00" 3'20" 2'00" 3'30" 3'30" 1'45" 2'10" 2'00" 2'50"
2010.08.01	歌曲集「愛する歌」増補版	ひばり ロマンチストの豚 海と涙と私と きんいろの太陽がもえる朝に 地球の仲間 雪の街 ユレル さびしいカシの木 犬が自分のしっぽをみて歌う歌 誰かが小さなベルをおす	やなせたかし	2'00" 2'40" 2'00" 2'20" 2'00" 2'10" 1'50" 3'10" 1'50" 2'10"
2010.07.01	歌曲「幼年」	幼年	吉原 幸子	4'00"
2010	歌曲集「父の唄」(ピアノ伴奏版)	夜はやさしい 小さなスフィンクス 父の唄	谷川俊太郎	3'50" 3'30" 2'45"
2009.07.09	歌曲「竹とんぼに」	△竹とんぼに	岸田 衿子	2'30"
2009.07.09	歌曲「サッカーによせて」	△サッカーによせて	谷川俊太郎	2'30"
2009.07.09	歌曲「鴉」	鴉	三好 達治	4'00"
2009.06.06	歌曲集「動物詩集」	牝鶏 揚げ雲雀 牛 蟹 蟬 鶴鴒 蟋蟀		2'30" 1'35" 2'00" 1'30" 2'50" 1'50" 1'45"
2009.06.01	歌曲集「悲しみの枝に咲く夢」	悲しみの枝に咲く夢 心の中の風 林檎料理 夜の薔薇 ゆふぐれ	大手 拓次	2'50" 2'30" 3'00" 4'30" 4'00"
2008.12.12	歌曲「たんぼぼ」	たんぼぼ	北原 白秋	6'30"
2008.09.12	歌曲「夢みたものは」	夢みたものは	立原 道造	3'10"
2008.09.12	歌曲集「古風な月」	湖上 月夜の家 月光 月の光に与えて お伽噺	中原 中也 北原 白秋 島崎 藤村 立原 道造 新美 南吉	3'00" 3'10" 3'40" 3'25" 6'15"
2008.04.06	歌曲集「父の唄」(アルトサクソ伴奏版)	△夜はやさしい △小さなスフィンクス △父の唄	谷川俊太郎	3'50" 3'30" 2'45"

■ = 今回の演奏作品 △ = のちに校訂・編曲された作品 (訳) = 原詩は Christina Rossetti

2007.12.01	歌曲「なにかが ほら」	なにかが、ほら	能祖 将夫	2'30"
2003.11.29	オペラ「不思議の国のアリス」	△不思議の国のアリス	ルイス・キャロル	100'00"
2000	歌曲集「C.ロッセティの4つの歌」	わたしが死んでも 夏 それは何？ もう一度の春	吉田 映子 (訳) 中村 妙子 (訳) 入江 直祐 (訳) 岡田 忠軒 (訳)	4'00" 2'45" 4'15" 3'20"
1999.10.	歌曲集「へびとりのうた」	I II III IV	東 君平	2'05" 2'10" 1'30" 1'30"
1999.04.01	歌曲集「三好達治の詩における2つの歌」	物語 乳母車	三好 達治	4'15" 4'50"
1999.04.01	歌曲集「抒情小曲集」	うくいす ほんとにきれい ねこぜんまい 夕顔 すずしい日 しじみ蝶 かぜとかざぐるま 山の枇杷 月の角笛 秋 白いもの つらら	武鹿 悦子 吉田 映子 (訳) 武鹿 悦子 金子みすゞ 岸田 衿子 新美 南吉 岸田 衿子 金子みすゞ 新美 南吉 壺井 繁治 北原 白秋 まど・みちお	2'00" 1'40" 1'15" 2'10" 1'30" 2'00" 1'30" 2'00" 1'30" 3'10" 2'00" 1'30"
1999.04.01	歌曲集「黒田三郎の3つの歌」	もはやそれ以上 ある日ある時 ピヤホールで	黒田 三郎	4'50" 2'40" 5'10"
1998.06.	童謡「ひこうき」	ひこうき	小野寺悦子	2'00"
1998.03.	童謡「ゆりいす」	ゆりいす	工藤 直子	3'00"
1997.12.	歌曲「歌を歌って」	歌を歌って	内藤里永子 (訳)	2'00"
1997.09.	歌曲「ねこぜんまい」	△ねこぜんまい	武鹿悦子	2'00"
1997.06.	歌曲「夕顔」	△夕顔	金子みすゞ	2'00"
1997.03.	歌曲「ほんとにきれい」	△ほんとにきれい	吉田 映子 (訳)	2'00"
1996.12.	歌曲「かぜとかざぐるま」	△かぜとかざぐるま	岸田 衿子	2'00"
1996.09.	歌曲「雲の窓」	雲の窓	武鹿 悦子	2'00"
1996.06.	歌曲「うくいす」	△うくいす	武鹿 悦子	2'00"
1996.03.	歌曲「おもいで」	おもいで	工藤 直子	2'00"
1995.10.	歌曲集「愛する歌」初版	△誰かがちいさなベルをおす △ロマンチストの豚 △雪の街 △ユレル △さびしいカシの木	やなせたかし	1'50" 2'10" 2'10" 2'00" 2'50"
1995.10.	歌曲集「秋の瞳」	おおぞらのこころ 植木屋 うつくしいもの 一群のぶよ 秋のかなしみ 竜舌蘭 黎明 不思議をおもう 空が凝視している	八木 重吉	1'50" 1'10" 2'10" 1'30" 2'15" 1'10" 2'00" 2'30" 2'00"
1995.10.	歌曲集「六つの浪漫」	風をみたひと 夢 草に寝て 重いのはなあに？ 風が風を ほのかにひとつ	木島 始 (訳) 吉行 理恵 立原 道造 木島 始 (訳) 多田智満子 北原白秋	2'30" 2'50" 3'30" 3'50" 1'50" 3'30"
1995.10.	歌曲「涅槃」改訂版	涅槃	萩原朔太郎	9'50"
1994.11.2	歌曲集「晩夏」	手 もうだれもないのに 晩夏 九月には 車窓 せめて銀貨の三枚や四枚 冬の金魚	きの ゆり 吉行 理恵 多田智満子 白石かずこ 高田 敏子 茨木のり子 新川 和江	2'10" 2'30" 3'00" 2'00" 4'00" 2'00" 4'20"
1994	童謡「かくれんぼ」	かくれんぼ	岸田衿子	0'50"
1978	歌曲「涅槃」初版	△涅槃	萩原朔太郎	15'00"



なぜですか
あなたになにかしましたか
噛んだとでもいうのですか
しめつけたおぼえもありません
いったいぜんたい
何故に捕まえるのですか
アダムとイブをそそのかしたこと
まだ怒っているのですか